

令和6年度第1回静岡市立芹沢銑介美術館協議会

1 開催日時 令和6年9月7日(土) 午前10時00分～12時00分

2 会場 静岡市立登呂博物館1階 登呂交流ホール

3 出席者 【委員10名】※選出区分、50音順

白井委員、山本直委員、月森委員、山本香瑞子委員、板倉委員、
本田委員、片井委員、大橋会長、稲垣委員、佐藤委員

【事務局】

望月文化振興課長、三浦館長、白鳥主幹、西方主査

4 傍聴者 0人

5 議 事

(1) 令和5年度入館者状況について・・・事務局より説明

(大橋会長)

ただいまの事務局の説明に対して、ご意見、あるいは質問はありますでしょうか。特にないですね。

(2) 令和6年度事業について・・・事務局より説明

(大橋会長)

今の事務局からの説明に対してご意見、ご質問などよろしく願います。

(佐藤委員)

今、ご説明の中にあったヒカリノヤカタですけれども、来月12日に開催予定ですが、ホームページを拝見しても告知の記事がないのです。広報しずおか、静岡気分にあるかなと思って8月号、9月号を探したのですが、ありません。これは今後告知をされると思うんですけれども、どこにどういう形でされるのかを教えてくださいたいです。

(三浦館長)

夜間開館の関係ですが、今回、駿河区役所を中心とした地域の企業や施設、団体が協力して期間中に様々な催しを実施する「駿河トロペーweek2024」というイベントに合わ

せてやろうと思っております。それが10月5日から14日まで開催されるものですから、その中で10月12日土曜日を選んで開催をさせていただくことになっています。そちらの方との連携がありまして、広報がまだうまくできていませんで、申し訳ありません。そちらの方でもチラシを作るものですから、今後駿河区役所のほうからも何か出てくるかと思うんですけれども、うちの方としましてもチラシを作って配布させていただく予定でおります。

(佐藤委員)

以前はネットで申し込みをしたと思うんですけれども、申し込み方法は同じようになるということですか。

(三浦館長)

今年の開催につきましては、事前申し込みをせずに直接来ていただく形でやろうかと思っています。去年だいぶネットがすぐに予約が埋まって残念だったという声を多く聞いたものですから、直接来ていただく形で、実際にどのくらい来ていただけるのかというのを今後の参考にしたいと思いますので、事前予約なしでやろうかと考えております。

(佐藤委員)

新しい形になるんですね。

(三浦館長)

はい、そうです。お願いします。

(大橋会長)

事前予約なしで行ったことはないですね。

(三浦館長)

そうですね、去年159名の方にお越しいただきまして、事前予約120名ということでやらせていただいたのですが、実際2時間くらいの間に多くのお客様が集まってしまうとどうかなというところもあるんですけれども、皆さん意外と落ち着いた方が多いですから、多分混乱することもないんじゃないかなと思うんですけれども、きちんと整理させていただいて、入館制限も必要に応じてやりながら進めていきたいと考えております。

(板倉委員)

先ほどのSNS、広報誌等の活用が7ページにあります。Twitterでとおっしゃっていたのですが、インスタとかはなさってますでしょうか。

(三浦館長)

現在インスタはやっておりません。

(板倉委員)

若い方たちはインスタ派の方が多いような気がしています。色々な発信をインスタだと響く、というのが結構あるかなと自分の活動を通してそう思ったので、手間がどれぐらいとか色々な問題があるかもしれないですけども、Twitter だけじゃなくてインスタとかもされればより広く出来るんじゃないかなと思って提案させていただきます。

(三浦館長)

ありがとうございます。検討させていただきます。

(大橋会長)

SNS の活用は、色々な意味で広報に有効ですが、その他の問題もあると毎回この件も出ることだと思いますけど、難しいだろうなど。X を見えても上げている回数が増えてきて大変有難く見えていますが、もうちょっとフォロワーが増えてほしいなという気がします。

(山本香瑞子委員)

今、SNS についてのご意見が出ていましたが、芹沢美術館オフィシャルアカウントはインスタグラムに持っておられませんが、ミュージアムショップのアカウントが非常にフォロワー数も多いようです。美術館の広報の一部分をショップさんのほうが担ってらっしゃるのかなと思っていつも拝見しています。ですので、なかなか限られた人数で SNS の発信は大変だと思うんですけども、上手に分担されてやってらっしゃるんじゃないかなと私は拝見していました。たしかミュージアムショップのフォロワー数は、当館のインスタグラムのアカウントよりも多かったと思います。そういう点では非常に効果的な広報をされてらっしゃるんじゃないかなと感じております。ご参考までになんですけど、当館も SNS アカウント、インスタグラムと Twitter と運営しておりますが、なかなか定期的に発信をするのは担当者の負担にもなっております。参考になるかどうかは分かりませんが、当館ではあらかじめ展覧会ごとに会期中にこういう投稿をしようというのを一覧表に作っておいて、それを日にちを決めて、あるいは来館者の投稿を見ながらお知らせを出すようなやり方をしております。

(大橋会長)

たしかにミュージアムショップのインスタは時々館の風景等含めて出ておりますので、芹美に繋がっているんじゃないかという気がします。もう少し広がっていくとなお良い、と思いますが、期待したいと思います。

(本田委員)

今の美術館活動のページの中で出張展示の説明があったのですが、空港や秘書課待合スペースにも出されているということなので、すごくいいなと思いました。この内容が、グリーティングカードや団扇だとかお聞きしたんですけども、どんな風に展示されたのかなって興味を持ちましたので、いつか次の機会にでも記録写真があったらいいなと思いました。特に私たち福祉大の方は、内部の人への美術館の発信不足になってしまいがちで、やはり同じ職場、学内の人、教職員とかに対して宣伝を忘れてしまうんですね。今、協議会資料の報告で秘書課待合スペースとか駿河区役所資料展示室があるんだと気が付き、そういったスペースも活用されていることは、すごく有意義なことだと思ひまして、すごく感心しておりました。やはり内部に向けての発信がいかに大事なことから、職員関係者に発信することで、何気なく見るとか目にするということがすごく大事なかなと思いました。ちょっと別の話になりますが、本学の卒業生が訪ねてきたときに、就職後に芹沢作品を目にしたとき、あれ、うちの大学にあったよね、と気づいて嬉しくなった、という話をしてくれました。学生に対して、特別に何かやるというよりはいつも芹沢作品がある、目に見えるようなところに置いておくだけで、その時はそれが芹沢銈介作品ということが分からなくても、知らず知らず目で覚えている。それが定期的に行われてることがとても大きな効果を生んでるんじゃないかなと思いますので、この出張展示の特に区役所内とか、そういった官公庁関係に展示をする、静岡の大事な宝である芹沢のものを展示する、紹介するってすごくいいことだかなと思って、ここをもっと強化したらいいんじゃないかなと思いました。

(大橋会長)

色々な市の施設でやってらっしゃいますけども、反応はどうなんですか。一般市民および市職員に対する反応はどんなものですか。

(三浦館長)

直接の反応は分からないんですけども、うちの方としましてはできるだけ皆さんにうちのことを知っていただきたいというのがあるものですから、展示できるスペースがあったらそこに食いついていく形で最近はやらせていただいています。市の関係でお知らせなんかがありまして、こういうところにこんな展示ができますよ、どうですかみたいなものがあるものですから、そういうところをお願いしてやらせていただいているような形なんですけれども、機会があれば色々なところに出張展示したいと考えております。

(大橋会長)

市の職員がどれくらい見に来ているんでしょうね。アンケートとってみたらどうですか。意外と、なんてことはないといいんですけど。会議が始まる前に本田委員とお話ししてい

たんですけども、今お話にあったように東北福祉大学の中に素晴らしい美術館を持ってらっしゃるんですが、一時その展示をやめて、仙台駅近くの小さなスペースを借りて、展示なさっておりました。今、また大学の中に戻ったんですが、駅のすぐ近くの展示場には一般の方が通りすがりに、旅行をしている方もひょいっと覗いていくそうです。静岡市の駅近に静岡市美術館がありますけども、他にギャラリーやそういうところがあるか分かりませんが、一般に向けられたスペース、市のそういうところを活用して、一般の方々に何気なく見ていただく、そういうチャンスは非常に大切なんだなと聞いておりました。

他にご意見はないでしょうか。

今回アンケートを見ていると、各地の展覧会を見たとか、前からありますけども倉敷行ったとか、東北仙台に行って知っていたとか、前から来たかったがチャンスがあったので来たとかアンケートに載っています。特に今回、さっき事務局から説明がありましたが、民藝の展覧会が全国あちこちやっている、そこで芹沢を見た、知った、そんなことが随分あるんだろうなと思っております。一昨日から日本民藝館でも芹沢の特集が始まって、初日に拝見してきましたけども、そこではいつもここで見る芹沢とはまた違った雰囲気が出て、非常に感激しました。今回は民藝館を見てこちらに訪れる方が多分増えてくるんだと期待しております。月森さん、今の展覧会についてふれていただけるとありがたいです。

(月森委員)

私は担当でなくて詳しくわからないこともあるんですけど、今大橋先生がおっしゃったように当館の所蔵品はそれほど多くないんですね。芹沢作品に関しては。詳しいことはよく分からないんですけども、芹沢先生の作品は一点一点が非常に高価だったでしょうし、当時から。それから芹沢先生の経済的な状況とかを、当時のことを考えると、うちの美術館創設者の柳もむやみに寄贈をお願いできなかったのではないかと勝手に想像しております。うちは自前の美術館なので、やはり権利がないんですね。作品を潤沢に買うということができないので、老人とかそういう民藝運動の先生方のは寄贈してもらったものがたくさんなんですね。そういう意味で芹沢先生の場合は、柳もなかなか言えなかったんじゃないかと思ったりしています。ということで、それでも収蔵品は柳存命中、1961年までに亡くなっているんで、61年以前のものだと思います。ですから、比較的初期のものが多いいんじゃないかなと思います。着物とかが非常に少なくて、今回の芹沢美術館から着物を借りてきました。あと若干、ここ数年着物の寄贈もあって、だいぶ増えたんですけど、全体として着物の形になったのは少ないです。ちょっと地味だったっていうのはそういうこともあるんだなと思っています。だから、もう一つ作品以外で芹沢先生から頂戴した世界の工芸品が本当にたくさんあるんです。それをどうしてこんなにいいのくださったんだと思うのがあるんですね。たぶん白鳥さんもお覧になったらほしいんじゃないかと思うんですけども、多いのがアフリカの工芸品。非常に優品です。朝鮮時代の絵画と呼ばれてますけれども100点近くいただいております。それが全部いいんです、芹沢先生がくださっ

たものは。芹沢銈介の目というものがどれだけ高いところにあったのかということも、収集品からみて非常にわかる。今回その収集品も展示しておりますので、手の仕事ということでは、非常にいいんじゃないかなと思います。初日から通常よりもかなりお客さんが入っている感触がありますので、集客が期待できるんじゃないかなと思います。

(大橋会長)

民藝館の企画にお客さんがたくさん来るってことは、たぶんこちらにも何割か流れてくるんじゃないかと期待しております。今、お話があったように古いものが多いのと、それから芹沢の収集品も展示されていますが、ここ芹沢美術館のように明るくある意味で賑やかな展示とちょっと違ってしています。民藝館独特の木造の風景にうまく見事にマッチして、芹沢の作品や収集品が民藝館のためにあったというくらいの展示になっておりまして、こちらの静岡の美術館と違う芹沢の顔を見ることができるので、もしよろしかったら、ぜひ、いらっしゃるといいかと思います。

他にご意見、ご質問お願いいたします。

(山本香瑞子委員)

毎回、美術館の活動をしておりますと、やはり観覧者数とか、どれだけのお客様に来ていただいたということが話題となりがちですし、大事なことではあると認識しているのですが、今回この協議会の資料を拝見してまいりましたときに、巻末についているお客様のアンケート、これを読んだ時に数だけでは分からないことが現れているんじゃないかなという感想を持ちましたのでお伝えしたいと思います。例えば、7番に小学生の頃、よく遊んでいたと、子供時代館内を駆けていてすみませんでした、とコメントがありました。先ほどの話の中でも出てきましたが、それと知らずに見ていたものが大人になってから実を結んでくる現象がこのアンケートの発言にも、現れています。また、デザインを学び見方が変わったというコメントがあって、館の活動と芹沢の作品がやはり見る人の心に影響を与えている、そういう館としての機能をしっかり果たしているんだなということがこういうアンケートのコメントから読み取れるのではないかなと感じました。他にも9番ですと、また来館したい。あるいは、14番では柳宗悦を読んでみようと思った。といったような、館における鑑賞体験が、より深い次の来館者の行動に繋がっているという点で、来館者の数だけでは分からない館の活動の質といいますか、影響力といったようなものがこのアンケートから非常に読み取れるのではないかなと思い、感銘を受けました。作品だけではなくて、美術館自体が愛されているなと思う発言もありまして、例えば、18番、特に何があるからでなく、季節ごとにお邪魔させていただいています。というコメントや、86番の、毎回しだれ梅を楽しみにしている、枝ぶりが寂しくなっていてとか、そういう変化に気が付くことに、この館のことを気にかけてらっしゃる、そういう来館者像がアンケートを通して浮かび上がっているなと思いました。そういう来館者数だけでは現われない、館の活

動の質的な良さといったところが、この芹沢美術館の魅力、強みだなということを改めて資料を拝見して感じましたので、感想で申し訳ないんですけども、お伝えさせていただきました。

(大橋会長)

アンケートはこの入館者の一部ではありますが、毎回感動することがありますが、山本委員が今おっしゃった、子供の頃遊び場だったというのにびっくりしました。その他60代の男性で、静岡を離れている方ですが、静岡出身ながら初めて知った、こんないいのがあるのになんでもっと広報しないのかと書いている方があったと思うんですけども、知ればみんなびっくりする、感動するんですよね。知るチャンスをどれほど増やすかというのが重要だなと思っています。静岡市民の方が初めて来てこんな宝があったんだと感動しているというのが本当に大切だなと思います。

他に、お願いいたします。

(板倉委員)

先ほどの山本委員の話で私も結構このアンケートを読むのが実は好きで、読んでいると色々伝わってくるなど。こんなによく書いてくださっているのは素晴らしいことだなと思いました。このアンケートの22ページの124番、収集品の持つ背景が分かればもっと良かった、って要望があります。そして25ページの182番で、ギャラリートークなど聞いてみたい、と書いてありますけども、ギャラリートークはイベントとしては今はやっていないですか。

(大橋会長)

ギャラリートークの実績はあるんですか。

(白鳥主幹)

やってないですね。

(大橋会長)

そうですね。

(板倉委員)

私は芹沢銈介美術館に来て作品とか背景を知るのはすごく聞けば聞くほど好きになるじゃないですけど、そういうところがあるような気がしていて、もっと知りたいとか、何度も来ていると、より思うんですね。そういうチャンスがあったら、聞いてみるともっとたぶん増えていくんじゃないかなと思いました。ぜひやってみてほしいです。

(白鳥主幹)

本当はこちらがご説明するだけじゃなくて、実際に来られた方、色々なストーリーというか、人生というか、なぜここに来たのかみたいなお話もあったりして、そういうのを話しながら、会話の中で芹沢先生の作品の前にそこであったことを喜びたいというか、私はどちらかと言うとそういうふう思うたちですけど、だから上からの説明するんじゃないくて、そういう一緒に話をする楽しみというか、そういうのが喜びになればと思いますが、ただ館自体はすごく小さいというのがあります。大きな館ではないので、またお一人で来られている方が結構多いんですね。ほとんど没入するように見られている方が多いので、最近特に男性の方が多くなりましたし、そういう方にとってはおそらく10人とか15人くらいの団体でも、喋りながら説明していることに関してはあまりいい感想を持たれないかなと思うんですね。だから、兼ね合いというかうまくやればいいなと思うのですが、現状どちらかというと美術館の雰囲気あまりよろしくないものにするというか、壊すとかまではいかないかもしれないけど、本当に楽しめるような環境にするというのはなかなか、うちの美術館は出しにくいのかなと思うので、やってはいないんですけど、ただ、時々最近小さなマイクを持っていて、皆さんがイヤホンをしている団体が来られることがありますね。無線で声が聞こえるような形でできればよりやりやすい環境ができて、やってみる価値はあるのかなと思います。あと、学芸の方もしっかり体制を整えて、ちゃんと先生についてご説明できるようにしっかり勉強しないといけないと思いますし、伝え方も研究しないといけないと思うんですね。当然日本の方だけではなく、やはりすごく影響力があるのは海外の方かなと思うので、一度そう説明してもらえることが分かったら次から次へと海外の方が来られるのかなと思いますし、やり方も含め最終的にどういう理想を描くかまで考えると、いろいろ広がったりしますが、現実的なところで無線みたいな形で、なるべくお客様に迷惑がかからないようにできる形で模索できればいいなと思います。

(大橋会長)

作品ごとの説明が少ないとアンケートに出てきたり、これはもう毎回あることですけども、難しいですね。今、イヤホンで説明を聞くのが各美術館で流行っております。説明を聞きながら見るという点では他に迷惑かけないのでかなり有効だと思うんですね。お金の問題だと思うんですけども、あれがあったら静かに全く迷惑かけずにいけるんじゃないかなと思います。それから、フランスの方が初めて来られてもっと何か資料がないかと書いておられましたけども、海外からのお客様も増えてきますので、例えば入口に館のこと、芹沢のことを簡単にまとめた英文、日本語、中国語もあればいいかもしれない、大きくなくていいんですけど、何か外国の方に向けてもそういうことがあったらいいかなという気がします。

(白井委員)

今のお話を聞いて私も発言させていただきます。ギャラリートークについて板倉委員から質問があつて、その後白鳥さんから答えがありましたけど、どちらもあることだと思つて聞いていたんですけど、結局お金がかかるんですね。例えばよくある方法としては、閉館後にやるとかなり影響ないわけですよ。例えば、年4回展覧会があるとしたら各1回ずつ閉館後に1時間くらいやるというものもあるのかな。館の負担にもなるわけですから、限られた人数でじっくりとやる。それで徐々にファンが増えていくことがあるのかなと思いますので、ご検討いただければと思います。

もう一点は、別のところでも聞く話なんですけれども、今コロナが終わって、清水港に豪華客船がかなりの数来ているんですよ。行く先の話を聞いて、静岡はなかなか観るところがないということで、御殿場に行くとか離れちゃうんですよ。そういう意味では芹沢銈介美術館は外国から来たお客さんにも非常にいい場所かなと思うんですよ。でも、そうするとまた大勢の外国人がガヤガヤガヤ来ってことになると思いますよね。そうすると一般の方が大変だろうとなるので、その辺をうまく調整してやればどちらにもメリットがあることになりかねる。だからインバウンドについて、市や館で何か検討はされていますか。

(三浦館長)

外国の方に対して何かということですか。

(白井委員)

清水港に来る豪華客船のお客さんが行く場所がないということで、かなり回数が増えていっているんですよ。そんな話を聞くんです。フランスの方の話も出たし国際的に見たときに、非常に満足いただけるような美術館だと思うんです。小さいですけど。そういうことで、まずは色々なところと連絡を取り合つて、どういう形なら実施できるかとか、全く見る所がないような気がするんですよ。工夫する余地があるかなと思うので質問させていただきました。

(三浦館長)

今のところ特に何もやってはいないんですけども、市の関係で客船の関係の部署があるものですから、そちらと連絡とりながら今後検討をしていきたいと思っております。

(望月文化振興課長)

それこそ観光で持っている広重美術館とかやっばり来たりとかしていることを聞いているものですから、誘致とかもして寄ってもらうような形のコースにすることをやったりしているところはあるものですから、実際の効果とかも聞きながら、この芹沢銈介美術館

に合うかどうかも含めて考えていきたいと思うんですけど、バスで回っていくコースの中に入れてもらうかどうかというようなことの検討になると思います。そのあたりは、館長からも申し上げましたが、客船誘致しているみなと振興課が色々と客船の関係をやっているものですから、その事情とかそこに売り込みに行くとかというところで実態の確認をした上で、あとは当館の方で受け入れられるか、そのことで色々と考えていきたいなと思います。

(稲垣委員)

ちょうど客船の件だったので、匠宿という市の工芸体験施設がここから 20~30 分ぐらい先にあるんですけど、そちらにやっぱり客船からお客様たちがお見えになります。大体少なくとも 20 人くらいから 2 台で 60 人くらい来るときもございまして、結構大ごとで、だから、受け入れは朝から今日は体験が来ますって言うので、皆さん館のほうを用意していて竹千筋細工とかやるんですけど、たぶんすごくプランを作るのが芹沢銈介美術館になると難しいかもしれないんですけど、少人数、例えば 20 以下でしたら可能性があるのかしらと思います。中では工芸が好きという方ももちろんいらっしゃるし、ただ観光で来る方もいるし、わあわあ来る方ではない層を上手くセレクトできる方法があるのであれば受け入れても悪くないかなと思います。私は今回の展覧会にたぶん 4 回来ているんですけど、今年に入ってからデンマーク人、韓国人、中国人と友達が来ると必ず駅に迎えに行き、芹沢銈介美術館をまず午前中に見せて、お昼を食べて、それから匠宿、自分のアトリエなんですけど、というコースを毎回やるんですね。すごく喜ばれて、工芸好きにはぴったりみたいな感じになっているんですが、やはり美術館の中は写真撮っちゃだめじゃないですか。それがまあまあネガティブというか、今なんで撮ってはいけないかと聞かれたりしたときに、著作権があるからと申し上げることは簡単なんですけど、やはりここで写真撮ってって場所があるからいいじゃないってそこで撮って SNS にあげるようにとかするんですけど、やはり気になったところで撮りたいと言われてしまうこともあって、それがたぶん拡散していくときに、その何かストッパーな部分がもう 1 個はずれると、すごく広がりやすいかなと思ったり、ギャラリートークの件も一回に一回ある、県立美術館は館長の話の日あるじゃないですか。ああいうときに合わせていくとファンの方がついて、白鳥さんのファンがついてみたいなことになると素敵かなと思いますけど、たぶんわあわあしない人も来るんじゃないですかね。雰囲気合った方がたぶん何回かやっていると来ると思うので、それが回数をどう重ねるかということもあるんですけど、期待したい。私はすごく白鳥さんの話がとても聞きたい。文章ではなくて聞けるというのはとても手軽でいいし、それがそのお金の分だけ一回いくらでっていうふうにして、経費の分どうやって回せるかわからないですけど、何か収益を作ることができる可能性はあると思うんですけど、できることからやっていかないとといったら、とりあえず立ってお喋りしていただいたら一番手軽かなと思います。あとさっき大橋先生がおっしゃっていた、このところで小さい時育

った。私すごいこの公園が遊び場でした。

(月森委員)

すみません、そもそも論になってしまうかもしれないんですけど、皆様のご意見は方向としては集客を増やすということになっていると思うんですけど、館としての、あるいは市としての年間入館者数とか1日の入館者数の目標みたいのがまずあって、それに届かないから入館者数を増やすという目標なのか、その辺をまず聞きたいです。私の感じからいくと、今年間3万人を超えていますね。それで一日の入館者数が100人を超えているのはかなりいい印象です。うちの美術館は東京の目黒区の駒場東大前という比較的にはここよりは交通の便もいいところで、スペース的には同じくらいのスペースで、一日100人を超えるとするんですね。ただ、年間はまだちょっと4万人くらいには、うちも同じくらいですね。ただそれを考えるとかなり入っているって印象がある。そしてこれ以上を館として市として望んでいるのかというところをまず伺って、少なかったら何かいい方法があるかという話に持ってた方がいいんじゃないかと。人が増えると必ずうるさくなります。例えば、東京のたくさん入っている美術館、サントリー美術館、根津美術館などでは職員の方が静かにしてくださいというプラカードを持って歩いています。あれも結構最近の動きで、静かにしてほしいという苦情がたくさんあるのだと思う。ですから、子供たちを入れたりギャラリートークをすることは、必ずうるさくなるという別の面もあるので、目標入館者数みたいなのところをお聞きしたいなと思いました。

(大橋会長)

最初に館長からもありましたが、今年は30,500人が目標で、去年は3万人だったんですよ。そのへんの目標はどういう設定ですか。

(三浦館長)

来ていただくお客さんに偏りがあるものですから、全然来ない日と、来る日がありまして、なにかイベントとかお休みが続いた時とかは大勢来ていただけるんですけども、普段の日は意外と閑散としているときがあったりもするところですから、せっかくいいものを持っているのでもっと皆さんに見ていただきたいという気持ちは強いものですから、もう少し来ていただいてもうちの方としては対応できるかなというところがありまして、今の状態よりも少し皆さんに見に来ていただきたいと思っております。なので、今の人数でいいかということそうは思っていないというところがありますので、もっと大勢の方に知ってもらいたいし、来ていただきたいと思っております。

(大橋会長)

収入はあった方がいいに決まっていますが、今の状態で入館者数が安定しているところ

があるんですけれども、入館者数はどういうところで折り合いが付いているのか、数的にもう少し超えないとまずい状態があるのかないのか。市立ですのでそういう点は難しいと思うんですけど、お答えいただければと思います。

(三浦館長)

うちの施設は収益施設というわけではないものですから、必ずしもというものはないんですけれども、市の費用対効果はどうなのかというところの面で、調査とか他の館と比べてどうなのかという話が出ているところもありまして、うちの館の今の状況としてはもう少し収入がないとよろしくないという形にはなっているんですけども、もともとそういったお金が取れる施設ではないものですから、今のところは許していただいている状況にはなっているところではあります。

(大橋会長)

分かりました。文化施設として収入を得るための施設ではないというのは重要な点ですね。そこが伝わっていれば必ずしもこれ以上収入を増やすために努力する必要がある意味ではないかもしれません。ただ、芹沢の芸術をより広く知っていただく機会というのは探っていく必要があるのではないかと。

(月森委員)

もし収益ということであれば単純に料金を上げればいいですけど。すごい安いじゃないですか。今はだいたい 1,200 円、1,500 円ですから非常に安い。高くしたら減っちゃう可能性ももちろんありますけど、お客さんの質の問題とか市としてどうしても収益が必要なのかどうか。

私の印象ですと、非常にいい感じだと思います。地方の市の美術館としてこれだけの質の展示をして、それなりの人数が入っているのはかなり優秀なんじゃないかと思います。

(大橋会長)

ありがとうございます。

(白井委員)

私もですけど、入館者数の単純に数を増やせばいいという発言ではなくて、これだけの内容のある美術館だから、知らない人もたくさんいるので、もっと知ってほしいという側面からのご提案だと思うんです。もう一つは、ギャラリートークについては、芹沢銈介さんの作品が好きな人にはあっていて見方や背景があるとか知りたい方が一定数いるだろうということのお話の中で通常の入館時間内にやってしまうと、逆にギャラリートークがうるさいという人も必ずいるんですよね。両立させるためには時間をずらすしかないだろ

うということでのご提案で、実際の運用の仕方は館の方が一番いい形を提案していただくのがいいと思いますので、一応委員としての発言ということでご了承ください。

(大橋会長)

ありがとうございます。

(山本直委員)

私も同感なんですけども、私が思うには芹沢銈介に会わせたいという思いがある一方で、遠足でバスで連れてきたことがあって、遠足といった時点で生徒はバスの中でカラオケを歌う、友達と話をする、そういうモードになってしまっているものですから、学校団体を受け入れるのであれば、この型にはまってくれという型を作って受け入れするというようなことがあればいいかなと思います。

たとえば、1クラスの40人を10人以下の小グループに分ける。それを登呂博物館と連携してエリアごと15分のローテーションで観覧してもらう。できれば、簡単な案内を入れたり、中・高生向けのセルフガイドなどもさらにいい。こんな型を用意して、先方に準備してきてもらうだけでも『芹沢作品とのいい出会い』に近づけるのではないかと思います。

丁寧な暮らしへの関心の高まりがあるものですから、区役所の展示や貸し出しも含めて、若い人も含めて芹沢作品を目にする機会、出会いを作る場、そういうものを増やしていったらいいと思います。

(大橋会長)

ありがとうございます。

(月森委員)

今の民藝展はプロモーションが入っていてかなりのお金がかかっている。ブームという感じではではないと思います。

(大橋会長)

ありがとうございます。民藝をどう伝えていくかという問題が確かにあるかなという気がします。アンケートの中にも世田谷の展覧会みたいにもっと民藝を前面に打ち出してみたらどうかというようなのがあって、今話題になっている「民藝」に芹沢をそのまま載けていいものかと疑問に思ったのですが、難しい点があるかと思います。ただ全国の展覧会を契機に芹沢銈介、芹沢美術館を知って来てくださっているのは本当に有難いと思います。アンケートに、岩宿の旧石器が好きで回っている方がそれをきっかけにここにいらっしやった方がいて、そういう繋がりもあるのかとびっくりしました。

(本田委員)

ギャラリートークをやってほしい気持ちがよくわかります。これだけの芹沢美術館の素晴らしさ、展示を観るだけじゃなくて一つ一つの作品の背景にあるものを知りたいという観る方の欲求ではあると思うんですね。静岡の芹沢美術館さんは、図録やコレクションのパンフレットとか複数とても出されておりますし、努力して紹介していることがよく伝わってきています。これは私たちがそういうことを知っているからなのであって、初めて来た方とかは、もっと知りたいとか聞きたいという欲求が出て来るんだと思うんです。ただ、月森委員、白鳥さんがおっしゃられたようになかなかうるさくできないという事情もよくわかります。今、民藝館さんは夜 講演会をなさるといのは、夕方 6 時からですよ。

(月森委員)

会場がないからです。

(本田委員)

確かに借りられる場所も近くにないですね。でも、民藝館さんのように、ある意味時間をずらして夕方やるとか、工夫すればできることなんじゃないかなと感じました。個人的にも白鳥さんのお話を聞きたいと思っているので、一点紹介でもいいので、5 分だけとか 15 分だけ、この一点だけ今日は紹介しますよという程度でもお話があったらいいかなと。そうするとうるさい状況にあまりならないで済む、そういった工夫もあっていいかなと思いました。出張展示だとか色々なイベントをされていて、準備にしろ何にしろ本当に大変だと思います。忙しいというか回らないんだろうなと。借用貸し出しもあるという、裏の仕事を考えたら本当に手が回らないだろうと思ってもいるんですけども、何かアクションとしてギャラリートーク的なものはやっていただきたいなと思っています。当館では、月 1 回程度、30 分くらいのギャラリートークを催すようにしているんですね。集まるのは本当に 5 人くらいから多くて 30 人くらいです。予告しておくに興味のある方は来てくださるし、人数が少なければ会話のような形でお客さんからその場で質問があったりして本当にいい雰囲気が成り立って、喜ばれているところなんですね。人数は 30 人はすごく多いです。とてもじゃないですが話が伝わらなかったりしますので、5 人かせいぜい 10 人以下が一番望ましい人数なのかなと思っています。やはり学芸員さんの話を聞きたいという欲求はお客さんから言われています。そういった活動というのは、すごく大事なんじゃないかと思っているんですね。そうして、図録だけとかではなくて、生の声で聞くことでお客さんの満足度とそれから次も来ますという答えが直接聞けますし、とても楽しくて良かったと言われるとやはり学芸員としても努力する、勉強をまたしようと思うんですね。勉強していないとギャラリートークができないと思うんですけど、芹沢さんの世界は深すぎてとてもじゃないけど一学芸員がすべてを説明できる訳もなく、その中でできることを

するという程度になるのですが、やはりそれが大事かなと思っています。ギャラリートークは、対話と私たち自身の勉強のために行っているといってもいいと思います。やはり芹沢銈介美術館や日本民藝館は、他の大きな美術館、イベントの企画をまわしていくようなところではなくて、柳さんや芹沢さんの思想を伝えていく美術館だと思うので、また特殊だと思うんですね。それを伝えていくのは、学芸員さんの仕事だと思うので、静岡の宝を、日本の宝ですよ、宝たらしめんとすることが学芸員の仕事で、その努力は常にしていって、持続させていくことが美術館の在り方になるんじゃないかなと思います。ギャラリートークを催しの一つに加えてもらえたら、さらにファンが増えるんじゃないかなと思っています。

(大橋会長)

今日の協議会の結論が出たような、そういうお話になったような気がします。白鳥ファンは密かにいるんじゃないかと思いますね。どこかでぜひそんなことがあってもいいんじゃないかと。前にも申し上げましたが、ミュージアムショップで白鳥さんのお話を聞くシリーズがあってあれが面白かった、続きはないんですかね。あれは大変生き生きしたお話で良かったと思うんですけど。

(白鳥主幹)

その時には続きがありますと言った気がします。

(大橋会長)

他には学芸員3人、館長、西方さん入れて5人しかいないのを考えたら大変なことだなとしみじみ思います。学芸員の山田さんのお話を聞く機会があったんですけども、非常に熱意があって一生懸命お話くださって感動しました。山田さんもうある意味で白鳥さんの芹沢観をかなり受け継いでいるところがあるような気がします。山田さんも含めてこういう機会があれば嬉しいなと密かに思っています。

(白井委員)

毎回言っていることで、芹沢銈介美術館には、もう一つ宝があって白井晟一さんの石水館ですよ。この建物をもう少し活かしていくことが必要なのかなと。アンケートを見てもそうですよね。これがまだ十分でない、足りないのかなと感じているものですからぜひその辺りを、またさらに仕事を増やして申し訳ないんですけど、一つのアイデアとしては、光の館。これが年1回。回数を増やせないかという提案を毎回させてもらっていますけど、今年度は1回でしょうがないですよ。来年度以降でせめて2回。倍増ですよ。冒頭でお話があったみたいに、お客さんが去年150人があつという間に埋まったという話がありましたよね。ですから、要望はあると思うんですよ。それから、チラシを配るの

が全国的ですから、きちんと紹介すれば東京とか遠くからでもお客さんがいらっしやると思うんですね。

せっかくの宝ですから大勢の方に知っていただけたらどうかなと思います。

もう一つ、関連するんですけど、坪庭の梅の木がありますよね。前にも申し上げたのですが、だいぶ危なくなってきたいて、そろそろめどを立てておかないと急にはできませんよね。静岡は若手で優秀な庭師さんが何人もいらっしやると思うんですよ。その方に、一人じゃなくたって静岡の庭師の組織があるはずですから、みんなで地域の宝を守ろうという形になる可能性はあると思うんですね。ぜひご検討いただきたいと思います。

(大橋会長)

毎回ご意見をいただいておりますが、なかなか先には進んでいないですけど、また新たに館長が変わりましたので、その辺を引き継ぎご検討いただけたら有難いと思います。

(片井委員)

皆さん知ってもらいたいという同じ意見だったので、知ってもらいイコール来館者は増えると思うんです。なので、その対応をしっかりとどういうふうにしていくかというところを詰めていくことと、山本委員が言われたみたいに学校の先生に知ってもらい、そこから生徒たちに話が伝わっていくという、誰かきっかけになるキーパーソンを作るのがすごく大事なんじゃないかなと思います。さりげなく目に入るという意見があったんですけど、目に付くところにポスターを貼るだと人件費もそんなに掛からないし、やはり興味がある人が見ると思うんです。だから、全学校に必ずポスターを貼ってもらいとか、そうすると生活の中で子どもたちが普段別に気にもしていないようなことだけど、先生から少し授業中に話が出たから気にしたりとか、そういうきっかけにもなるので、とにかく目に付くところに芹沢銈介の存在をちょこちょこアピールしていくのもすごく大事なんじゃないかなと思いました。来館者の年齢層を見ると高齢化が進んでいて、若い方々に良さがあまり伝わっていないんじゃないかなと感じます。先ほど言った説明のイヤホンですけど、今子供たちは iPod で聞くとときもイヤホンで聞いていることが多いので、使うことにすごく抵抗がないので、もし取り入れられるのであれば、説明のものを用意していただければ子どもたちがそれを聞きながら静かに回ることも可能んじゃないかなと思いました。

そして、ミュージアムショップですけど、私もインスタを見て来館したときにおもしろいものがあるので、よく見させていただくんですけど、芹沢銈介の作品が日常生活の中で生きている、テレビで山田さんが NHK で話していたんですけど、その考え方はすごく大事だなと思って、もっと日常生活で使えるバッグとかTシャツとか染師の専門家が同じ会場にいるしこういう方の力を借りつつ日常的にみんなが使えるところに芹沢銈介のデザインが作品の何かが入っていると見た人はすごいカッコいいなとか、若者たちも今まで目にすることがなかった年齢層も身近に感じられるのではないかなと思いました。

(三浦館長)

ポスターにつきましては、各小学校に配布させていただいております。あと、町内会にも掲示をさせていただいております。子どもたちへの働きかけなんですけど、以前の協議会でも学校の先生にまず知っていただくことが大切だという話をいただき、先ほど白鳥からもう説明させていただきましたが、今年、しずおか教師塾でうちの館の学芸員が講師をさせていただくんですけども、そちらのしずおか教師塾は、静岡市の小学校教諭を目指す方に静岡の色々なことを知ってもらって、静岡の教員の即戦力として勤めていただきたいという教育委員会の願いがあって開催されるものなんですけど、そちらの講師をされる教職員課の方が、こちらの館が大好きということで、館のことを先生になる方に知ってもらって好きになってもらって、こちらの館に子どもたちを連れてきてもらいたいという思いがあり、ぜひやらせてもらいたいという話があったので、そういったことも活用し教育委員会とも連携をしながら、今後も進めていきたいなと思っています。そういった中で、子供たちにどういったことができるかということも検討していきたいと思っています。

(片井委員)

2年前にしずおか教師塾の中で PTA から一人講師を出してくれということで、生徒の皆様の前で1時間半くらい講演をさせてもらったんですけど、その時に聞いてくれていた生徒の方々は、今から教師になるという熱い思いを持った方ばかりで本当にすごく未来は明るいなと感じたんですけど、ただ、大変な忙しい課程の中で芹沢銈介美術館の話が出てきて、彼らの中にどれくらい意識が残っているんだろうというところが、すごく疑問に残ったので、今現在、教壇に立っている方々、特に美術に特化した方々にしっかりと芹沢銈介の資料なり情報なりを提供していくことが、より早く子どもたちに情報が伝わるのではないかなと感じました。もちろん働きかけはすごく有難いです。

(大橋会長)

ほかにご意見はございますか。

(白井委員)

駐車場の件を言わせてください。アンケートの中にも有料なのかという意見がありましたけれども、今までのやり方は時代に合わないと思うんですね。駐車場の代金とは別に入館料を取るわけですから、この中の滞在は1時間という人が多かったです。その次は1時間半、そういった方に駐車料金が400円はちょっと文化施設としては、高過ぎると思いますので、ぜひ良い形で解決していただけたら有難いと思います。

(三浦館長)

今、駐車場用地を所管します登呂博物館と、運営しております するが企画観光局と交渉を継続中ということですから、うちの館としましては、こちらの要望を強く訴えていくところと交渉に必要な資料の提供をさせていただいています。交渉を継続中で進展は今のところはありません。申し訳ありません。

それでは時間になりましたので、本日の議事はこれで終了させていただきます。

会議録署名人（会長）

大橋正芳

会議録署名人（委員）

佐藤 俊夫